

## コミュニティバス・デマンドタクシーの収支状況について

## 1 趣旨

近年、公共交通を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、コミュニティバスやデマンドタクシーの運行経費が増加することに伴い、市の財政負担も増加している。

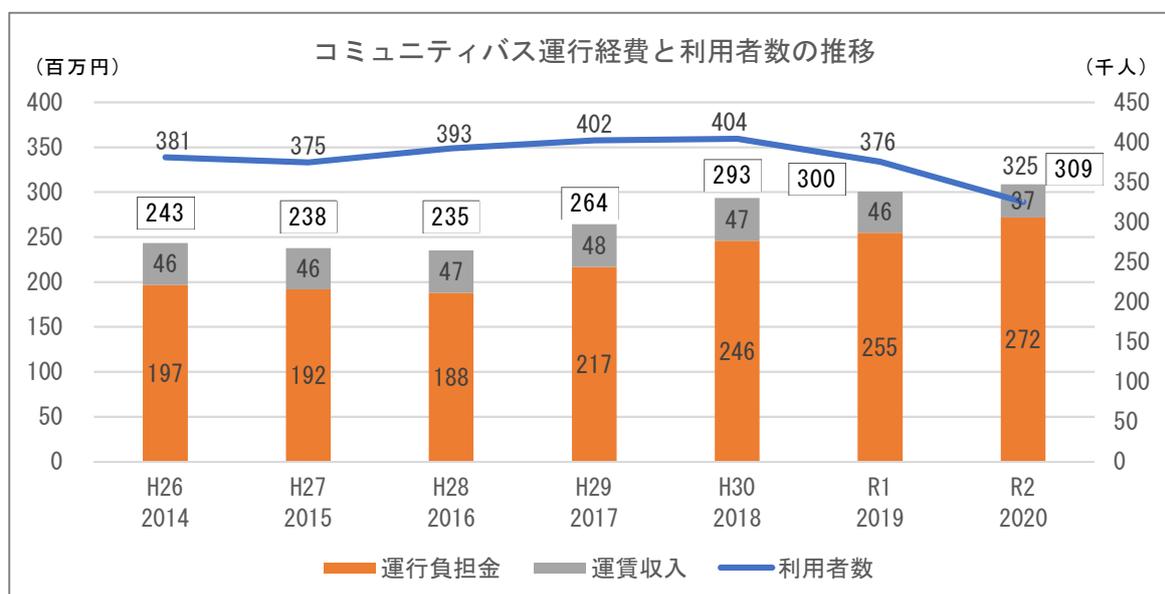
本市では令和 2 年 3 月に射水市地域公共交通網形成計画を策定し、公共交通の持続性とサービスレベルの確保には運行の効率化が必要であるとして、コミュニティバス・デマンドタクシーの運行内容の見直し等を取組項目として掲げている。

## 2 現状について

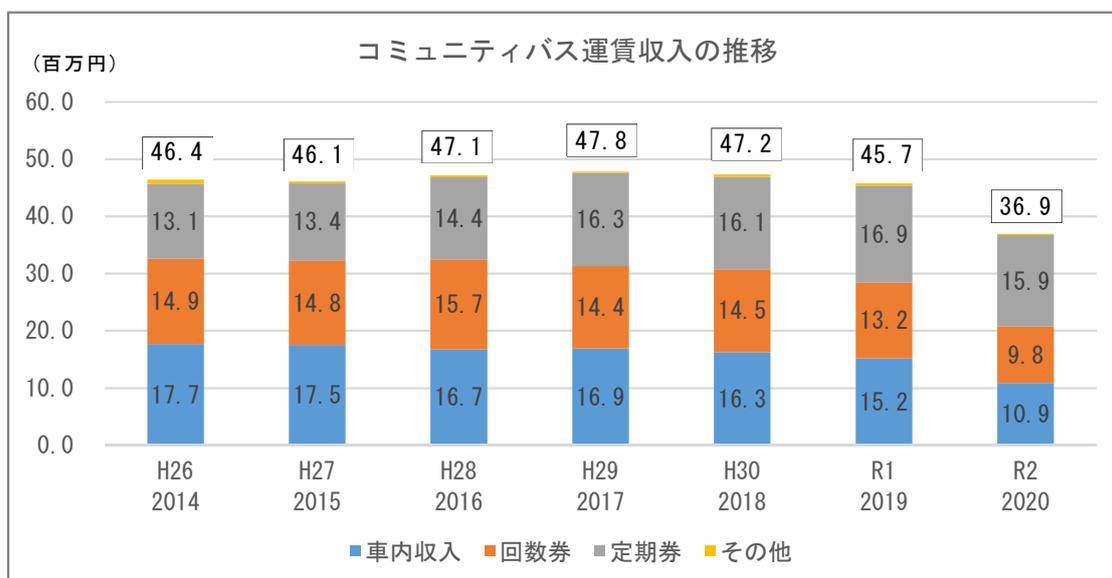
## (1) コミュニティバス

コミュニティバスの利用者数は、平成 30 年度までは年間 400 千人程度利用されており、運賃収入も 47 百万円前後で推移しているが、令和元年度は暖冬と新型コロナウイルス感染症等の影響により、また令和 2 年度は大雪による運休と新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少している。

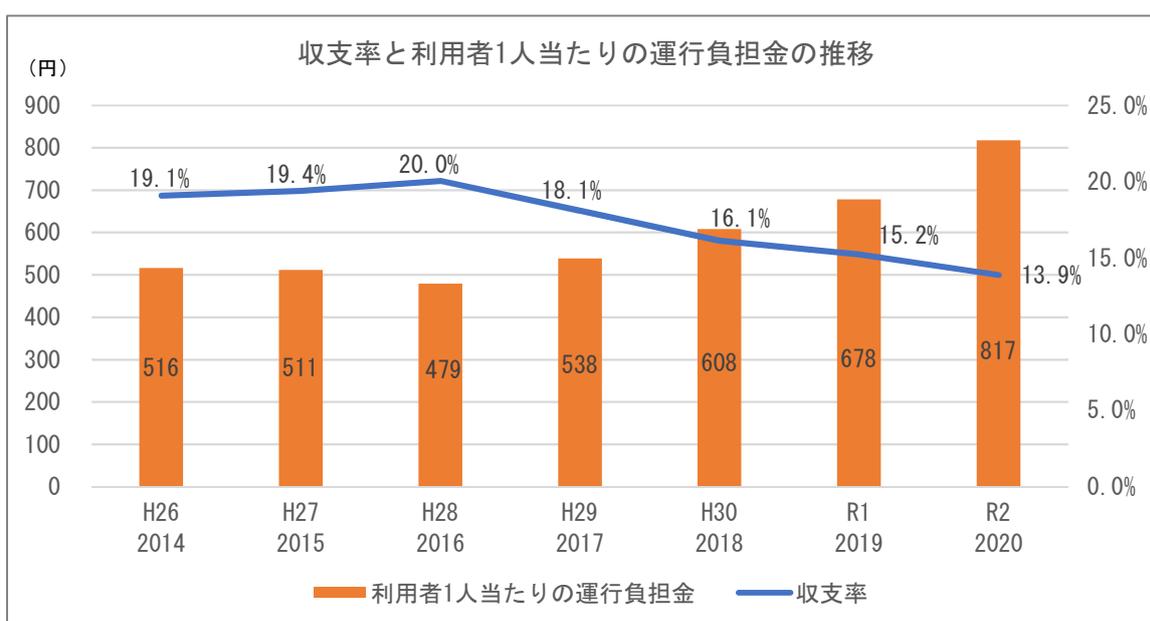
一方、運行経費は、平成 28 年度までは 240 百万円前後で推移していたが、その後は増加して 300 百万円を超えている。これに伴い、運行負担金（市税投入額）も 200 百万円以内であったものが、270 百万円を超えている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策として増車対応したことも影響している。



運賃収入の内訳を見ると、平成30年度までは車内収入、回数券、定期券それぞれ概ね3分の1ずつを占めていたが、令和元年度・2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、とりわけ高齢者を中心に外出を控えたためか、車内収入と回数券の減少幅が定期券の減少幅よりも大きくなっている。



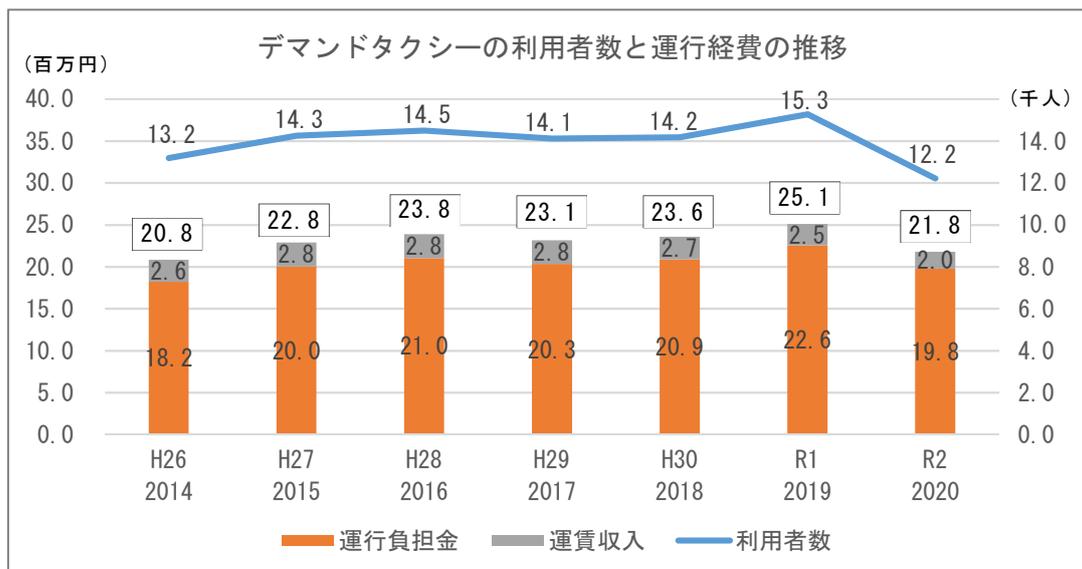
収支率についてみると、平成28年度までは20%前後で推移していたが、その後は15%を下回るくらいに減少しており、利用者1人当たりの運行負担金についても、500円前後で推移していたものが、600円を超え令和2年度には800円を超えるに至っている。



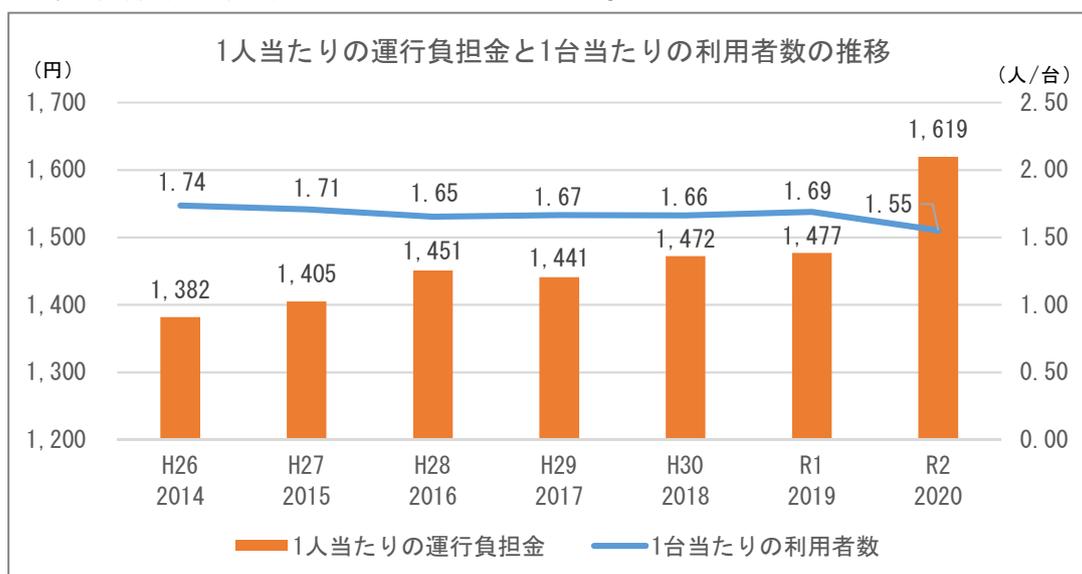
## (2) デマンドタクシー

デマンドタクシーの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は減少しているが、それまでは年間14千人程度利用されており、運賃収入も2.8百万円前後で推移している。

一方、運行経費は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は減少しているが、それまでは徐々に増加して令和元年度には25百万円を超えている。これに伴い、運行負担金（市税投入額）も20百万円前後であったものが、22百万円と徐々に増加している。



1人当たりの運行負担金を見ると、年々増加傾向にあり、令和2年度には1,600円を超えている。原因としては、運行1台当たりの利用者数が1.7人以上（それ以前は2人以上）だったものが、徐々に減少しており、乗合率が低下していることにある。



(3) 計画における目標値と現状について

地域公共交通網形成計画では、第2次総合計画で掲げる利用者数の目標値をもとに設定しており、計画策定年度から31千人の増加を目指している。

また、運行負担金については、効率化と利用促進の取組により計画策定年度から20百万円程度の収支改善を図ることで、利用者1人当たりの運行負担金を550円に引き下げる目標としている。

いずれの指標についても、新型コロナウイルス感染症等の影響により目標値からは大きく乖離しているのが現状である。

	利用者数 (千人)	R6 との差 (千人)	利用者1人 当たりの運行 負担金(円)	運行負担金 (百万円)	R6 との差額 (百万円)
H30 (2018)	419	31	637	266.8	▲ 19.3
	コミュニティバス	404	608	245.9	
	デマンドタクシー	14	1,472	20.9	
R1 (2019)	391	59	709	277.3	▲ 29.8
	コミュニティバス	376	678	254.7	
	デマンドタクシー	15	1,477	22.6	
R2 (2020)	337	113	864	291.5	▲ 44.0
	コミュニティバス	325	836	271.7	
	デマンドタクシー	12	1,619	19.8	
R6 (2024) 目標値	450		550	247.5	

### 3 今後の取組について

#### (1) 計画内での取組項目について

地域公共交通網形成計画では、持続可能な公共交通の仕組みづくりのため、以下の取組を掲げている。

- ・ コミュニティバス・デマンドタクシーの最適化（運賃の見直し等）
- ・ 運行財源の確保（交通広告等の活用）
- ・ モビリティ・マネジメントの実施（乗り方教室等）
- ・ 交通サービスのキャッシュレス化（スマホ定期券の推進・QRコード決済の導入検討）

#### (2) 収支について

コロナ禍以前は、運賃収入は安定しているが、運行経費の増加に伴い運行負担金（市税投入額）が増加していたところ、新型コロナウイルス感染症の影響により収支がさらに悪化している状況である。

また、今後、運転手の確保がさらに厳しくなると、経費の更なる増加も予想され、公共交通の持続性を確保するためには収支改善は不可欠である。

一方、令和2年度にはコミュニティバス等再編プランを策定して、令和3年度はそのプランに基づき路線再編・ダイヤ改正を行っているところである。また、令和4年4月にはデマンドタクシーの運行区域の見直しを予定しており、路線再編による効率化で一定の経費削減も見込まれる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復も含め、利用状況の推移などを見定めていく必要がある。